

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第63号 2012年10月1日発行

2012
10
月号



小田急桜ヶ丘駅より東北方向、徒歩5分桜丘小学校近くの観光農園にコスモスが一杯。他にも市内各所で見られます。



●大和市スケッチ NOW・3回シリーズ(その1) 矢倉沢往還 絵・柴田 豊(大和市職員)

江戸時代より東海道の裏街道として重要な交通路であった矢倉沢往還が大和市内を通っていました。矢倉沢往還に沿う形で、現在は国道246号が整備されていますが、大和市内の下鶴間宿を含め、宿場町だった場所を中心に旧道が残っています。下鶴間宿があった周辺には観音

寺、鶴林寺、唯一残る商家建築である小倉家住宅(下鶴間ふるさと館)など歴史ある建築物が集まり、旧往還の両側には昔ながらの趣きを残す家々が連なります。「かながわのまちなみ100選」「かながわの古道50選」にも選ばれている歴史を感じさせる景観です。



フェスタキャラクター
カッコちゃん

カッコーフェスタ'12 11月3日(土)・4日(日)実施

(第7回市民活動団体交流まつり)

アイデア募集!

打合せ日程: 10/11 (木) 14:00~16:00など4回実施 場所: 大和市民活動センター

<送付の際、同封されているご案内>

・11/3(土)・4(日)開催 カッコーフェスタ'12のご案内/申込書

*「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

協働事業

2012年度は市民提案型の10提案
行政提案応募型の2提案が
協働事業として推進されることになりました。

・12の提案のうち
新規事業(市民提案型)
はこれです。

ふくしのあしを増やしたい

事業名は…… 提案者は…… 事業内容は……
通学、通所、外出支援の ふくしのあし 障害児・者やその家族と地域住民の交流の場を企画、実施すること
地域ネットワーク形成 フットワーク で、通学、通所、外出に関するニーズの掘り下げを行うとともに、ボ
ランティアの発掘、育成を行っていく。



・継続事業の市民提案型9提案、行政提案応募型2提案は次の通りです。

	事業名	提案者 *「特定非営利活動法人」を「NPO法人」と表示。
市民提案型	移動制約者の外出介助サービス事業 障がい者・高齢者のための「外出介助サービス」事業 大和市移動制約者の外出介助サービス事業 はぐくねっと 「冒険遊び場」ツリーガーデン管理運営事業 ドッグラン管理運営事業 地域で支え合う「のりあい」を走らせよう 生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つま読み書きの部屋」 地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業	NPO法人ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる NPO法人大和市腎友会 NPO法人たんぼぼ NPO法人地域家族しんちゃんハウス 緑野青空こども広場ツリーガーデン管理運営委員会 結の会 地域と市との協働「のりあい」 NPO法人かながわ難民定住援助協会 渋谷きんりん未来の会
行政提案型	みんなでつくろう安心のまち事業	大和女性防犯会 NPO法人日本ガーディアン・エンジェルス大和支部

大和市 HP{市民活動・NPO→協働事業の取り組みについて→平成24年度協働事業等提案の流れ}をご覧ください。

※ 大和市民活動センターの管理運営は[拠点やまと]と市民活動課との平成23年度行政提案型協働事業です

「新しい公共」の先進地域

9月11日(火)に「横須賀市立市民活動サポートセンター」を訪問

「サポートセンター」の館長(指定管理者:NPO法人YMCAコミュニティサポート)からお話を伺いました。

横須賀市は、阪神・淡路大震災後の NPO 活動の高まりと法制定の動きに合わせて全国に先駆けて「新しい公共」への取り組みを始めた自治体であり、県内最大規模の施設は市民公益活動推進への熱意のあらわれであるように感じました。しっかりとした組織運営を基盤としつつ、イベント時には商店街をまわって寄付を集めたり、2 年がかりで市内の NPO 法人を訪問して聞き取りを行う等、地道な活動を熱心に行っていることが印象的でした。年配の方々に配慮した広報の検討、公益活動団体を優先した施設利用基準の導入などは当センターでも今後取り入れるべき課題であるように思います。(拠点やまと/中山みゆき)

横須賀市立市民活動サポートセンター
横須賀芸術劇場の1階にありました



サポートセンターのマスコットのたろん not alone

ボランティアコーディネーター養成講座

- ・共通 主催:社会福祉法人大和市社会福祉協議会
- 10/9(火) 講演「ボランティア活動とそのコーディネート」
- 10/16(火) 講演「ボランティア活動におけるリスクマネジメント」
- ・次いで、活動分野別学習会(これのみの参加も可)
- 10/25(木)「福祉施設におけるボランティア活動」(講師)
- 10/27(土)「災害ボランティア活動」(講師)
- 10/29(月)「地区社協個別生活支援活動」(参加者が事例検討)
- ・時間はすべて、13:30~16:00
- ・会場はすべて、大和市保健福祉センター4階講習室ほか
- ・申込みは電話で。Tel:046-260-5643 <参加費無料>
- ※大和市市民活動センターも講座開催に協力しています。

着々すすむ「のたろんフェア」

横須賀市立市民活動サポートセンターのおまつり「のたろんフェア」は半年前から実行委員会を開き、準備しています。実行委員会に人が集まるのはなぜとお聞きしたところ、大学や高校のボランティア講座に話をしに行ったり、商店街に訪問してフェアのお知らせをしたりなど、センターから出てつながりを求める活動をすることで、そのつながりが実行委員会参加にもつながっているとのこと。つながりを外に出て求めていくことって大事なことと実感しました。(市民活動課/村山真弓)

9/14(金)第55回を開催しました。参加者は22名。

連続共育セミナー

ルールに則って、育てていこう! NPO。

テーマ:NPO法改正 新寄附税制 会計基準

~知っておきたいポイント~

講師:手塚明美さん(ソーシャルコーディネートかながわ理事)

今回は、初めて「センター」を出て渋谷学習センター(高座渋谷駅前「IKOZA」)で開催。

NPO法人10団体が参加。2012年4月に改正されたNPO法に対応するため、今、すべきことについて学んだ。

信頼される組織になるためには、情報の公開、ルールの順守と変化への対処については常に心がけることが大切



とのこと。今日参加したNPO法人の定款に例をとり、変更登記等手続きの必要が「ある・ない」について具体的に説

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

次回の第56回連続共育セミナーは

テーマ:(仮)ファシリテートについて学ぶ
日時:12月初旬を予定

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

明し、参加者とのやりとりは細部にわたり、時間を過ぎても熱心に続いた。「今日は勉強になりました」と一言を聞いた。

「センター」のある日ある時

9月17日(月・祝) 晴れ・わか雨

今朝、「センター」前が妙に明るかった。隣の商工会議所入り口横の大きな桜の木が伐採され撤去されていた。毎年、春には満開の花見ができ、散った後は木陰が来館者を憩わせてくれた。老木となり倒れる危険が生じたため、予告されていたとはいえ、16日(日)三連休の狭間で処置されていた。一抹の寂しさを覚える。



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。
2012年10月号(第63号)をお届けします。

日本の平均寿命が下がった原因のひとつに「20歳代の自殺の増加も影響している」という厚生労働省の分析が載った新聞の記事に「ほんとかよ」と反応してしまったことを8月号の「お届け文」に記しました。

なぜ? と、いろいろ考えていたときに「やまと自殺対策フォーラム」という催しが9月8日(土)に大和市民保健福祉センターでありました。これに参加しました。会場400席はほぼ満員。関心の高さが伝わってきました。主催は、やまと自殺対策フォーラム実行委員会。福祉・司法・教育関係・学識経験者などの分野で活躍している方々で構成されているとありました。

この実行委員会の委員長・上村政行さんが「フォーラム」開演のあいさつのなかで、「景気低迷、社会保障も受けられず、借金が原因での家庭崩壊など、自殺予備軍の切迫した状況がある」というお話をされました。

後日、「自殺者の年代別状況・大和市」(2009年~2011年)という資料を大和市民健康福祉総務課から受け取りました。これによると、20歳代から40歳代の自殺率は49.6%。毎年大和市中では50人近くの市民が自ら命を絶っているとありましたが、その半分を占める市民は実に働き盛りの世代なんですね。

市の自殺対策事業のスローガンは今年度も「守ろう いのち あたたか 大和」。そうでありたいと私も思う。いくつもの相談窓口が用意されているにも関わらず、それでも働き盛りがそれらのネットから外れ、なぜ自死を選んでしまうのか。

7/28付け東京新聞社説に「過労社会 まず休息から考えよう」と、見出しがあり、「長時間労働はうつ病などの精神障害の引き金となる恐れがある」とありました。

ある青年が私に言う。「おじさん、今はあのね、8時間勤務なんて、それ夢のまた夢だよ。ぼくのまわりのやつで、レストランの名ばかりの店長、もう24時間ぶっとおしで働いて、居眠り運転で事故ちゃって死んだ。これ、自殺じゃないけれどさ」。

働き盛りが働き甲斐がある仕事をする。これ、本来あたりまえのことだ。その道を目先の利益にとらわれず、行政も企業も市民も参加し、知恵を出し合い考え、さぐる「フォーラム」(*)ができればと思う。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2012/09/17

(*)フォーラム=forum。原義は古代ローマで公の集会所に使用した広場)

